

沖縄県における新型コロナウイルス感染症とワクチン接種

沖縄県保健医療部ワクチン接種等戦略課
副参事 森 近 省 吾

沖縄県庁新型コロナウイルス感染症対策本部で、ワクチン及び検査を担当しています。沖縄県庁入職前は関西地方で約25年間小児科の臨床医として働いていました。現在、年度末を迎え新規陽性患者数が増加傾向の中の3月下旬にこの原稿を執筆しています。

皆様もご存じの通り、沖縄県では一昨年（令和2年）2月14日に、ダイヤモンドプリンセス号に関連した1例目の患者さんを発端に、6つの波に見舞われ、11万人以上の感染者を認めており、現在は第7波の始まりなのでしょうか。

当初、感染者は20～30代の若者や高齢者に多く、小児の患者は比較的少なかったのですが、第4波頃から徐々に増加し、第5波では15歳未満が全体の約19%と著名な増加を認め、オミクロン株が契機の第6波の現在も多くの小児の陽性者を認めています。

この間、我々は新型コロナウイルスと戦う2つの武器を手に入れました。ひとつは、中和抗体および抗ウイルス剤を代表とした薬物治療で、高齢者および基礎疾患のある方に使用され重症化予防に寄与しています。ただ、小児につきましては、限定的な使用になっており、小児にも安心して使用できる薬物の開発を期待しています。もう一つはワクチンの登場です。mRNAを利用する新たな手法等で急速に開発され、16歳以上に昨年の3月から、12歳以上の小児にも6月から接種が行われ、特に重症化予防に一定の効果を示しています。2回目接種からの時間経過、オミクロン株の流行により、特に感染予防効果については減弱を認めますが、追加接種が開始され効果の改善が期待され、実際に接種の進んだ高齢者では感染者特に重症者の減少が認められています。

3月からは5-11歳の小児に対してのワクチンも開始されました。小児ではほとんどの例が軽症であるとされていますが、第5波（デルタ株）では県内でも人工呼吸器の使用を余儀なくされた重症例を複数認めています。第6波（オミクロン株）でも軽症の比率が多いのですが、患者数の増加に伴い中等症以上の症例も増加しています。特に基礎疾患をお持ちの小児にとっては、感染は脅威であることは異論のないところであると考えます。また、沖縄県では感染が拡大するたびに、学校の休業を余儀なくされ、懸命に感染予防に励んでくれている子どもたちが犠牲になっています。これらのことを考え併せると、5-11歳の接種では予防接種上の努力義務は現時点では課されていませんが、正しい情報を理解していただいた上で接種を希望する子どもたち及び保護者の方々がワクチンを接種できる機会を設けることが我々に与えられた役割と考えております。

ワクチン接種の普及及び治療がさらに進化することにより、近い将来に我々、特に子どもたちが従来の生活を取り戻していることを期待し、巻頭の言葉とさせていただきます。